まち

No.14 2020年 春号

発　行　日：令和2年3月23日
発　　行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531（学科事務室）
発行責任者：岡田智秀（教室主任）
編 集 担 当：小木曽 裕、西山孝樹
制　　作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言 …… 1
特集　まちの見方・楽しみ方【関東編】 …… 2
ドイツ・スイス・フランスの歴史的都市を巡る海外研修旅行 …… 9
令和元年度　卒業生の就職活動状況 …… 10
令和元年度　まちづくり工学科研究業績 …… 11
令和元年度後期　“まち”行事・イベントカレンダー …… 14
令和元年度　まちづくり工学科各賞受賞者 …… 15
教職員・学生の活躍 …… 16

巻頭言

減少社会の到来へ雑感

教授　髙村義晴

わが国において現代はまさに時代の転換期であり、自然の凶暴化に伴う災害の常態化、超高齢社会の出現など、都市や地域の生存を脅かしかねない事態に陥る。

右肩下がり時代に入り、いわゆる“減少社会”では、これまで都市・地域をリードしてきた方法・手法が不調を起こしている。地方創生、郊外住宅団地、都市の空洞化、そして被災地復興など、問題の慢性化が目立つ。東日本大震災被災地の復興にしても、インフラや宅地といった空間の復興は概成するが、それは国が定めた“復興”という定義においてのことである（写真参照）。それで活力と誇りをもって地域が生き永らえられる、ということではない。生計の糧、人のつながり、誇り、そして希望が失われ、住民の減少が不気味に忍び寄る。

“減少社会”において失われたのは、住民、宅地・床需要、交通需要や利用者・購買ニーズといった「需要」だけではない。地域が生き長らえるうえで、大事ななにごとかも失われたり減少したりしたのだ。地域の楽しみ、絆、美意識、人情・誇り、仕事・暮らしなど、「脈々と受けつないできたもの」が失われ、人のつながり・結びつき、共同社会といった「地域のつながり」が変貌する。さらには家族・個人での解決力、地域のけん引役、地域維持の担い手といった「地域の対応力・解決力」も変質する。

これら喪失、変質したものの補充・補完が要る。しかもこれらの要素・成分は、それぞれに無関係ではなく、相互に重なり結びつき合う。機械のように、設計図通りに部品を組み立てさえすれば、再び正常に機能するというものではない。私たちは、これまで問題に向き合うとき、個々の部分に分けて“個”ごとの検討を深掘りし、その結果を束ねて解決策を見いだしてきた。たとえば空間・暮らし・生業などを分けて捉える。けれどそのようなやり方が、減少社会への対応を難しくする。

むしろ生命体のように、慈愛をもって向き合い、新たな価値創造を行い、新たな潜在可能性が花開くよう寄り添っていく必要がある。往々にして急激な大変化により、地域に後遺症のごときものがのこる。この後遺症にも対峙していかなければならない。“地域の生き方”を見つめ直さざるを得ないことも少なくない。そこには“機械論的なまちづくり観”ではなく、“生命論的なまちづくり観”が望まれる。新たな思想、計画論・手法、そして果敢な挑戦、それにもとづく知見が求められる。そこに、“まちづくり”の新たな使命、活躍の場、ビジネスチャンスが見えてくる。“減少社会”への対応、それは“まちづくり”にとってのまさに新領域ともいえる。

被災者の高台移転地の光景（2019年12月）

まちの見方・楽しみ方 関東編

◉ 千葉県銚子市

ゆっくりと流れる時間に身を委ねて

千葉と私が生まれた和歌山には、同じ地名があるなど共通点が多い。そんな千葉・銚子へ日帰りで行ってみよう。JR で銚子駅へ到着したら、銚子電鉄へ乗り換え。沿線で使えるさまざまな特典が付いた１日乗車券を購入するのがオススメ。

まずは、仲ノ町駅で下車。ここには、紀州から銚子へ移り住んだ初代・濱口儀兵衛が創業したヤマサ醤油の工場がある。工場は無料で見学でき、名物の「しょうゆソフト」も濃厚で美味だ。

仲ノ町駅に戻り、電車に揺られながら犬吠駅へ。銚子電鉄は鉄道事業だけではなく、ぬれ煎餅や鉄道グッズにも力を入れている。その犬吠駅には売店も併設されており、お土産探しに立ち寄ってみよう。

駅から少し歩くと、お雇い外国人・リチャード・ヘンリー・ブラントンの設計により建設された白亜の犬吠埼灯台が目の前に。息を切らしながら、99段ある螺旋階段をのぼると、灯台の上から雄大な太平洋を水平線の彼方まで見渡せる。

美しい灯台のシルエットに見惚れつつ、最近話題の「犬吠テラステラス」へ。２階にあるハンモックベンチに揺られながら、ぼんやり海を眺めることもできる。さらに、地元作家によるさまざまな体験型の講座やイベントが開催され、交流の場としての機能も持ち合わせている。

時間に余裕があれば、銚子電鉄の終着駅である外川へ足を伸ばしてみよう。こちらも、江戸時代前期に紀州ゆかりの崎山治郎右衛門が碁盤の目状の街区を整備した。たびたび映画のロケ地ともなった外川駅舎を眺めていると、ここで止むなく時間切れ。銚子駅へ戻るとしましょうか。

写真１

写真２

写真３

写真４

写真５

写真１：仲ノ町駅は銚子電鉄の車庫が併設され、入場券があれば見学もできる。背後には醤油工場のタンクも見える。 写真２：「犬吠テラステラス」にはベーカリーやカフェに加えて銚子ビールも。犬吠埼灯台の足元には白い郵便ポスト。手紙を出すと願いが叶うかも。 写真３：古き良き漁師町の面影を残す外川のまちなみ。陽が傾くと遠くに見える海が光り輝く。 写真４：路地を曲がると猫が縁側で日向ぼっこ中。車通りが少なく猫たちも安心して横断していた。 写真５：列車が到着し多くの観光客で賑わう外川駅。多くの映画でロケ地として登場。ここから海に向かって長い下り坂が続く。

西山孝樹 助教（天野・西山研究室）
専門｜観光計画／土木史

まち歩きを楽しもう！

雄川堰（大堰）。こうした水路がまちじゅうに張り巡らされている

◉ 群馬県甘楽郡甘楽町

歴史と伝統を受け継ぐまち

群馬県南西部に位置する甘楽町は、大坂夏の陣後に織田信長の次男信雄に与えられた小畑藩２万石を基盤とする。名勝楽山園を中心に広がる旧家のまち並み、そこを縫うように流れる水路網、のびやかに広がるこんにゃく畑、ちぃじがきと呼ばれる石垣の段々畑など、その風景の一つひとつから、歴史と伝統を大切に暮らしていることがよくわかる。そして何より、町名を見ただけでなんだか訪れてみたくなるまちである。

阿部貴弘 教授（歴史まちづくり研究室）
専門｜景観／都市史／歴史まちづくり

◉ 千葉県市川市

中山法華経寺参道とまちづくり

中山法華経寺は、日蓮上人が建立した寺で国宝にも指定されるなど、由緒ある古刹である。市川市も景観施策を中心に電線の地中化、路面の設え、沿道建築物の景観指導・支援などに取り組み、ホームページにもその取り組みを掲げる。JR 総武線、京成などからの交通アクセスにも優れる。けれど、同じく日蓮宗の末寺である柴又帝釈天と比べると、人通り、活気に憾みがある。その理由と見方を探る。

髙村義晴 教授（髙村研究室）
専門｜地域創生／都市再生／復興

参道の雰囲気

◉ 茨城県取手市

サイクリングとアートで身体と心をリフレッシュ

私の住む取手市は東京のベッドタウンだが人口の増加は緩慢であり、昔のままの自然の残るまちだ。JR 取手駅東口から５分ほど歩いて利根川沿いのレンタサイクルで自転車を借りて（無料、冬季休業）堤防の上を走るのはとても気持ちが良い。河川敷では少年野球やジョギングが行われている。

利根川の堤防から離れてしばらく一般道を走ると、彫刻や鍛金のアトリエがある東京芸術大学取手キャンパスに着く。ここで、一般にも開放されている芸大食堂（平日営業）に入り、ランチを食べよう。ちょっと違った雰囲気の芸術家の卵たちがたくさんいて、自分も芸術家になったような気分だ。

帰り道は、畑の中にあるカフェギャラリー「OMONMA TENT」（金土日営業）で一休みしよう。このカフェには地元の芸術家たちがたくさん集まってくる。彼らの焼いたコーヒーカップで美味しいコーヒーが飲めるのも楽しみだ。芸大食堂が休みの週末なら、ここのランチ（カレーまたはスープ）がおすすめだ。ギャラリーでは絵画や写真、陶芸など多彩なアート作品が月替わりで展示されており、気に入れば作品を買って帰ることもできる。

JR 取手駅に帰り着いたら、電車を待つ間に駅ビルの４階にある「たいけん美じゅつ場（VIVA）」に寄ってみよう。東京芸大生の作品や地元の作家の作品の展示があり、運がよければコンサートが聴ける。自転車で身体を動かし、さまざまな芸術に触れることによって、身体と心がリフレッシュされること間違いなし。

利根川の堤防上にある無料レンタサイクル

東京芸術大学取手キャンパス入口の「藝大食堂」の看板

畑の中にあるカフェギャラリー「OMONMA TENT」

青木和夫 特任教授（人間工学研究室）
専門｜人間工学／健康工学

有名どころのディープな楽しみ方

川越駅側のクレアモール入り口

クレアパーク

川越では抜群の知名度を誇る丸広百貨店

仲村成貴 教授（仲村研究室）
専門｜地震工学／防災／構造工学

◉ 埼玉県川越市

川越クレアモール

小江戸・川越と聞くと、蔵造りの街並みに代表されるような情緒溢れる空間を思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、まち空間としての見どころは他にもたくさんあります。そのひとつがクレアモール。川越の玄関口である川越駅（JR川越線・東武東上線）と本川越駅（西武新宿線）付近を結ぶ全長約1kmのショッピングモール（商店街）です。

通りを行きかう人はさまざまです。地元の人々、店舗の従業員、近隣で働くビジネスマンやOL、観光客、買い物客、近隣の学校に通う小学生・中学生・高校生・大学生、川越駅～本川越駅間の乗り換え客も……。毎日午後1時から6時までは歩行者天国となりますので、車を気にせずに安心して歩けます。

通り沿いにはいろいろな店舗や施設が混在しています。近年増えている全国チェーンの店舗、古くからある店舗やお寺、銭湯跡地を整備した広場「クレアパーク」、川越市民なら誰でも知っているデパート「丸広百貨店」など……。クレアパークではイベントが開催されることもあります。また、通りを少し外れた路地にも店舗が点在していて、その中には知る人ぞ知る名店もあります。

通りは歩きやすく整備されています。幅員は約6m、舗装は御影石、化粧蓋で覆われた側溝、電線は地中化されています。通りに面した建物はほとんど3～4階建てで、路面と建物の間は平たん（段差無し）、駐車場の出入り口は通りに面していません。

蔵造りの古い街並みでタイムトラベルした後に現代のクレアモールを散策、という川越ならではの時代を跨いだまち歩きを楽しんでいると、あっという間に川越駅到着です。

路地にも多彩な店が

ハワイにも負けない黄昏時の前原海岸

◉ 千葉県鴨川市

近郊ビーチリゾート

都心から100分でアクセスできる鴨川市は、黒潮の影響で冬でも温暖で、4kmに及ぶ海岸線を有する地域である。その海岸エリアには、近代サーフィン発祥の地とされ海水浴でも賑わう“日本の渚百選”として名だたる「前原海岸」やサーフィンのメッカである東条海岸（遊泳禁止）、鴨川シーワールドや日蓮ゆかりの誕生寺・清澄寺の門前町などを有する。背後にひかえる棚田百選の「大山千枚田」も一見の価値あり。多様な世代が楽しめる近郊リゾートである。週末の前原海岸で、私を見かけたらぜひお声掛けください！

岡田智秀 教授（岡田・落合研究室）
専門｜景観まちづくり

◉ 神奈川県鎌倉市

鎌倉探訪「谷（やつ）」巡りのススメ！

武家の古都として知られる鎌倉ですが、幕府が置かれたのはわずか150年程のことであり、幕府以降に鎌倉を訪れ、住んだ人々によって当時の歴史や面影が偲ばれ、現在に至る「鎌倉ブランド」が築かれました。中世、近世、近代、と各時代の鎌倉を堪能するには、「谷」巡りがお勧めです。中世以降継承されている鎌倉独自の小字名「谷」は、文字通り地形に由来します。入り組んだ谷沿いの道を歩きながら、各時代の人々の痕跡を見つけると、改めてこのまちの赴きを感じることでしょう。まずは、鎌倉駅前の書店で「鎌倉（復刻古地図）」を手に入れて、出発しましょう！

井戸や入り組んだ支谷の存在から中世以降多くの人が訪れ、居を構えた「扇ガ谷」

押田佳子 准教授（押田研究室）
専門｜緑地計画学／観光計画学

◉ 群馬県吾妻郡草津町

療養のまち草津温泉と国立療養所栗生楽泉園そして重監房

草津温泉は、戦前には全国からさまざまな疾病の患者が湯治に来ていました。感染病としてときに醜悪な身体を呈する不治の病として恐れられていたハンセン氏病の患者たちは、北東部の斜面に家族や地域から離れ、患者自ら耕し自立するためのまちをつくりました。この湯之澤部落の人々は第二次大戦中に近隣の栗生楽泉園へと強制移住させられ、ひとつのまちが消えました。栗生楽泉園には、残酷な重監房がつくられ、戦後、証拠隠滅のために破壊されました。華やかな観光地の一面にこうした事実を知る人々のたたずまいと、負の近代遺構を訪ねることができます。

戦前の湯之澤部落（出典：国立療養所栗生楽泉園 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/hansen/kuriu/rakusenen_003.html　2019年12月２日現在）

八藤後　猛 教授（八藤後研究室）
専門｜福祉まちづくり

◉ 埼玉県羽生市

利根川の水面からまちを眺める

埼玉県北部には日本一の流域面積を誇る“利根川”が流れています。利根川は、江戸時代に舟運事業や江戸の水害対策などを目的とした利根川東遷事業が行われるなど、多くの歴史を有した人工河川です。今回ご紹介する埼玉県羽生市は、利根川東遷の始まりの地であり、現在、利根川の自然や歴史を体験しながら、水面からのまちを眺めることができるラフティング・カヤックツアーが行われる興味深い地域です。みなさんもこうした活動を通じて“自分だけのまち”をみつけてみませんか？

人工河川・利根川を独り占めする

田島洋輔 助手（岡田・落合研究室）
専門｜環境・観光まちづくり（水辺環境を活かした魅力的な河川空間づくり）

◉ 茨城県つくば市

山登りだけじゃない、筑波山の魅力

筑波山は、「西の富士山、東の筑波山」と言われ、古くから信仰の山として、年間を通して登山できる山として大変人気のある山です。しかし、筑波山には「登山を楽しむ」以外にもたくさんの魅力があります。筑波山神社の境内散策はもちろんのこと、カフェ巡り、温泉、アウトドアパーク、体験型を含めたイベントと宿泊ができるコワーキング施設等、登山以外の魅力をたくさん持っています。是非、登山以外の魅力を探しに訪れてみてください。

筑波山にあるアウトドアパーク。大人コースもあり、なかなかスリリングな体験ができます

牟田聡子 助手（八藤後研究室）
専門｜福祉／子ども

◉ 栃木県宇都宮市

地場産材「大谷石」を活用したまちなみ

フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテル（1923–1968）の内外装材として用いたことで一躍有名となった石材が「大谷石」です。大谷石（写真１）は、栃木県宇都宮市大谷町付近で産出される凝灰岩の一種であり、多孔質で吸水率が大きく、軽くて軟らかい石材です。外観上の特徴としては、淡青緑色（風化に伴い赤褐色に変色）の地色に「ミソ」と呼ばれる茶褐色の斑点が含まれており、独特の風合いを持っています。ミソの混入状況によって石目が荒目、中目、細目に分類されます。

宇都宮市周辺では、大谷石が耐火性や調湿性に富み、加工が容易であったことから、古くから身近な建設材料として利用されてきました。宇都宮市には、大谷石の建造物が多く現存しています。市北部の農村地域には大谷石の建造物が密集している地区もあり、街道沿いに石蔵や石塀などが建ち並び、この地域特有の石のまちなみ（写真２）が形成されています。また市内には、明治時代から昭和前期にかけて建てられた歴史的価値の高い建造物も多く残っています。例えば、カトリック松が峰教会の聖堂（写真３）は1932（昭和７）年に創建された教会建築で、国の登録有形文化財に指定されています。

地場産材は、地域特有の景観を生み出す魅力的な材料です。宇都宮市では、地場産材「大谷石」を活用した景観まちづくりが推進されています。地場産材「大谷石」がどのように活用され、大谷石の建造物がどのように保全されているのか、目を向けてみるのもひとつの楽しみ方です。

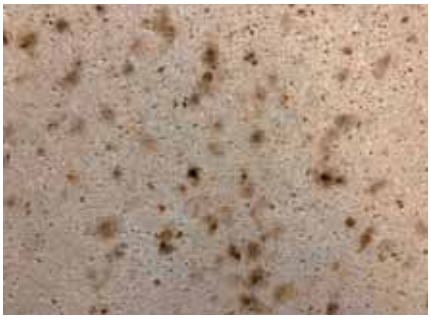

写真１

写真２

写真１：大谷石
写真２：徳次郎町西根地区の石蔵と石塀
写真３：カトリック松が峰教会の聖堂

写真３

荒巻卓見 助手（後藤研究室（沿岸域防災研究室））
専門｜建設材料・施工、コンクリート工学

◉ 茨城県日立市

常磐線日立駅自由通路から太平洋を眺める

建築家の手掛けた作品の中でも、出身地にまつわる作品を眺めてまちを考えるのは楽しい。JR 日立駅自由通路は、高校まで日立市で過ごした妹島和世氏の作品である。とことんまで真っすぐに伸ばした自由通路を進むと、突き当りの展望室・レストランから太平洋の水平線が左右に一本ピッと伸びる景色は絶景である。学生時代の妹島氏も、高台などからこの素晴らしい景色を楽しんでいたのではないかと思うのである。

JR 日立駅自由通路の海に張り出した展望デッキ。ここまで視界を遮らず水平線を楽しめるポイントは、市内でも少ないのではないか

田中　賢 教授（田中研究室）
専門｜安全・安心まちづくり

◉ 神奈川県横須賀市馬堀海岸高潮対策護岸

非常時も平常時も「まち」にとって必要なもの

1995（平成７）年および1996（同８）年に、この地域は高潮による浸水被害を受けました。このため、国土交通省により、本護岸が設置されました。この護岸の特徴としては、高潮により海水が護岸を越水したとしても、大きな礫のある区間で、海水が落下し海に戻る構造で内陸への海水の浸入を防いでいるところです。このような防災機能だけでなく、平常時は、広い遊歩道を利用し、子供が遊んだり、住民が散歩やランニングをしたりする格好の憩いの場となっております。

馬堀海岸高潮対策護岸

後藤　浩 教授（後藤研究室（沿岸域防災研究室））
専門｜河川工学／海岸工学

専門家ならではの別視点

◉ 神奈川県横浜市

まちはひと

まちはひとです。私は月に一度東京の中野から横浜の弘明寺まで通っています。そこには凄腕の父娘が営む理髪店があるのです。その父は70歳を過ぎてハーレーで遠出をするいわば「イカレおやじ」ですが、町っ子囃子の指導をしながら子どもたちをしつけ、弘明寺商店街の活性化を真剣に考え、洪水災害の時には一人暮らしの高齢者を避難所まで運び、町内会のもろもろの問題を解決する、余人をもって代えがたい人物です。私の理髪店は「まちってこういう人が絶対必要なんだ」と実感させてくれる貴重な場所です。

右上:ハーレーにまたがるイカレおやじ
(出典:「横浜観光情報」横浜コンベンション・ビューロー)

城内　博 特任教授(人間工学研究室)
専門｜働くひとの健康管理

◉ 関東全域

ぶらっと役所へ

日大に赴任する前の仕事でさまざまなまちを巡ったが、近県にも味わい深いまちが多い。そんなまちでの仕事後に多少の時間があるときは、役所を訪れていた。一訪問者として役所内部を回ってみるといろいろな発見があって面白い。特に、最上階などに喫茶室があり、空いている時間帯だと最高である。東京との近さゆえのまちの違いを、上から楽しんでから薄暗くなった地上に戻る。東京に近いからこその時間の余裕を楽しみたい。

夕日にたたずむ栃木県K市役所

依田光正 教授(依田研究室)
専門｜まちと福祉テクノロジー

◉ 神奈川県川崎市

都心の建替事業「アーベインビオ川崎」屋上ビオトープ

市街地のヒートアイランド現象緩和のため、UR は既成市街地の新規建設の屋上緑化を行い、ここは屋上ビオトープにチャレンジした。居住生活は駅から繋がっている人工地盤上で、地域の生物層を調査し生態に考慮した植物を移植するなど、デザインと生態を駆使し水盤等も配し、野鳥等を呼び込む屋上ビオトープを創出した。屋上・壁面、特殊緑化技術コンクール環境大臣賞を受賞、居住者への屋上ビオトープへの意識評価は90%代であった

左側楕円形(集会場)の左と上部が屋上ビオトープエリア。右下は駐車場上部の芝生広場と緑地(第２期ビオトープエリア)。右上は高層階のデザインされた屋上緑化

小木曽　裕 教授(小木曽・山﨑研究室)
専門｜都市計画／緑地計画

◉ 神奈川県横浜市

横浜開港から現在までの街並み・建造物を体験する

写真１

写真２

写真３

写真１：憩いの場としてだけでなく、賑わい創出の場として活用されている赤レンガ広場。 写真２：屋上ウッドデッキ（くじらのせなか）から見える風景。 写真３：横浜市現庁舎活用事業完成イメージパース図。写真右側の行政棟が保存され、ホテルと商業施設にとして活用される予定。（写真は横浜市ホームページより）

横浜関内・みなとみらい周辺を散策すると、開港当初は外国人居留地であった関内・中華街周辺、関東大震災の復興事業として誕生した山下公園、貨物線の痕跡が残る汽車道等、横浜開港からの歴史を感じることができる。

横浜赤レンガ倉庫では、歴史的建造物をただ保存するのではなく、改修と用途転用して活用している。その前にある赤レンガ広場では、パンのフェスティバルや展示会場等、年中イベントが開催されている。赤レンガ倉庫内の商業施設やホールに加えて、屋外空間も稼ぐ空間として活用することにより、まちの賑わい創出に寄与している（写真１）。

一方、現代的なデザインの大さん橋国際客船ターミナルでは、フェリーターミナルとしての機能に加え、都市の新たなオープンスペースも生み出している（写真２）。屋外のウッドデッキを歩いていくと緩やかな斜路で建物内部へと入ることができ、都市のオープンスペースがそのまま建築物の内部へと延長されている。

今年は横浜市庁舎の移転事業も開始する。現庁舎は1950年代に竣工した村野藤吾設計の戦後モダニズム建築である。移転に伴い取り壊して全て建て替えるのではなく、最も古い行政棟は保存され、商業施設として活用される予定である（写真３）。定期借地で民間事業者が開発を進める公民連携手法も取り入れ、部分保存をしながら再開発を進めている。このように都市として発展や新陳代謝が起こっているエリアであり、これからのまちの変化も楽しみである。

山﨑　晋 准教授（小木曽・山﨑研究室）
専門｜都市計画／建築計画／地域施設マネジメント

◉ 神奈川県横浜市

歩く人のための「みち」空間、イセザキモール

私が初めてイセザキモールを訪れたのは、1978（昭和53）年11月にイセザキ・ショッピングモールが完成してすぐの1979（昭和54）年初頭であった。横浜市の田村氏をはじめとした方々の努力、地元のリーダーの松重氏らの努力、加えて当時建設省におられた新谷氏の努力、さまざまな方々の努力で、歩いて楽しい道ができたと感動した。ストリートファニチャの配置など不思議に思ったものであるが、道路法の規定の関係で歩行者専用道ではなく道路交通法による車両の乗り入れ規制であることを知って、なるほどと思ったものである。

ワゴンセールも展開するイセザキモール。このような空間を創造するための裏の苦労を知ると一層興味深い

天野光一 教授（天野・西山研究室）
専門｜景観・デザイン論／観光計画

横浜を楽しむ

◉ 神奈川県横浜市

横浜のディープな“ウチガワ”

横浜と聞くと、みなとみらいや赤レンガ倉庫、山下公園など湾岸エリアを想像しますが、内陸側に一歩入るとディープな街に出会えます。例えば、JR 桜木町駅からほど近い野毛山動物園（なんと入園料無料！）で知られる野毛町では、空き家を現代版寺子屋としてリノベーションした「CASACO」（tomito architecture 設計・写真）や、かつてのバラック街で知られる黄金町・日の出町では、京浜急行線の高架下空間を有効活用した「高架下かいだん広場」（西倉建築事務所設計）や「日の出スタジオ」（横浜国立大学＋ SALHAUS 設計）など、都市の既存ストックを有効活用した、趣き活きるまちづくりが行われています。皆さんが知る横浜とは、ひと味違う横浜が味わえます。

CASACO（横浜市西区東ヶ丘）。木造二軒長屋を改修し、多世代・多国籍の地域拠点型シェアハウス。とくに１階の軒下空間は街の縁側として、誰もが入りやすい設えになっている（出典：http://casaco.jp）

落合正行 助教（岡田・落合研究室）
専門｜建築計画／建築設計

ドイツ・スイス・フランスの歴史的都市を巡る海外研修旅行 ―歴史、文化のあるまち、美しいまちを訪ねて―

教授　小木曽 裕

まちづくり工学科の第３回の海外研修旅行です。2019年８月28日から９月11日まで、28名の学生と行ってまいりました。３カ国のまちづくりや都市計画や観光施策の現状を研修することを目的とし、多数の世界文化・自然遺産の都市や建築や自然に触れることを特徴としました。

スタートは南ドイツのミュンヘンで、ニンフェンブルク宮殿を経てロマンチック街道の南端のノイシュバンシュタイン城の絶景（写真❶）をマリエン橋から満喫しました。

ロマンチック街道を戻り歴史ある街並みや農場を見ながら、中世の町を代表するローテンブルクのマルクト広場や残された城壁などを回りました。

ドイツ最古の大学の有る町、ハイデルベルクでは城とハウプトシュトラーセを踏査し、城からのネッカー川と街並み緑の景観（写真❷）は大人気でした。

ベルリン市内では世界文化遺産博物館島内のペルガモン博物館で世界のイスラム文化と西アジア文化を主に知り、ポツダムでは世界遺産のサンスーシ公園とツェツィーリエンホーフ宮殿を堪能しました。

世界文化遺産のベルリンのモダニズム集合住宅群のドイツの建築・都市計画家であるブルーノ・タウトの作品があるブリッツでは保存会の方の説明を受け（写真❸）、会長ご自宅も見学させてもらいました。同じタウトの設計のガルテンシュタット・ファルケンベルクでは田園都市の思想の豊かな外壁色彩から新たな建築の思想を学びました。

スイスのチューリッヒに飛びました。チューリッヒ湖と市内研修後、4,000m 級の山々に囲まれた、標高1,034m の小さな山岳の村のグリンデルワルトへ移動しました。ホテルのベランダからはアイガーの北壁などが見える最高のロケーションで、学生は大喜びで、今まで見たことの無い景色（写真❹）を満喫していました。

次の朝から登山鉄道でヨーロッパ最高地点（標高3,454m）にある鉄道駅ユングフラウに向かい、世界自然遺産のアレッチ氷河を大パノラマで堪能しました。

街が世界文化遺産のベルンの美しい街並みを一望できるバラ公園から町並み景観を把握し歩いて街を探索しました。

ラ・ショー・ド・フォンの時計産業都市計画のまち（写真❺）では、

スイス観光局の方にガイドツアーを２時間していただきました。ラ・ショー・ド・フォンは外観からは説明を受けない限りその意味がわかりませんが、丁寧な説明を受けて皆、その都市計画の価値を知り納得していました。最後に、国際時計博物館を見学しました。

坂の多い、落ち着いたローザンヌ市内から、世界文化遺産のラヴォー地区の丘陵のレマン湖を望む美しい景観と自然の太陽光、レマン湖からの照り返しの太陽光、石垣が太陽光で熱を帯び、寒さ除けの役割を果たしています。ワイン作りの歴史的評価を受けた葡萄畑の地形と景観と歴史を研修しました。レマン湖へ繋がる斜面は最高のロケーションと最適な気候にあり、美味しいワインができます。

ローザンヌから列車にて最後の都市、フランスのパリに入ります。到着後、ル・ノートルの設計した世界文化遺産のフランス式平面幾何学式庭園（写真❻）のスケールの大きさを見下ろし、有名な彫刻家による噴水も堪能しました。

講義での学びも大切ですが、実際に体験することは極めて重要なことです。この海外研修旅行が、学生の今後の「まちづくり」に関する大学での研究・勉強や、卒業後の実務に役立てば幸いだと考えております。

写真❶　ノイシュバンシュタイン城

写真❷　ハイデルベルクの街並み（ネッカー川と緑の景観）

写真❸　「馬蹄形集合住宅ベルリン･ブリッツの友と振興者の会」の方と

写真❹　グリンデルワルトからの景観

写真❺　ラ・ショー・ド・フォンの時計産業都市

写真❻　ベルサイユ宮庭のフランス式平面幾何学式庭園

令和元年度　卒業生の就職活動状況

まちづくり工学科就職指導　教授　仲村 成貴

本年度の進路決定状況（2020年３月８日現在）は表１の通りです。大学院の決定率は100%、学部生は94.8%、全体では95.0%であり、本年度も堅調に推移してきました。図１に就職先の業種別割合（進学含む）、表２に就職・進学先一覧、図２にこれまでの修了・卒業生の就職先業種別割合（進学含む）を示します。官公庁、ゼネコン、建設コンサルタント、不動産、住宅で全体の約７割を占める点は例年通りと言えます。運輸、インフラ整備、製造、設備、建築設計、造園など、多岐にわたる業界へも継続して就職者が出ていることも、本学科の特徴として定着しつつあります。１期生（平成28年度卒業）から就職者の割合が最も多い官公庁は、２期生以降も増加を続け、本年度は初めて３割を超えました。また、不動産業への就職者の割合は年々減少している一方で、建設コンサルタントへの就職者は増加傾向にあります。

表１　就職・進学状況（2020年３月８日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
修了･卒業見込者数	81人	35人	116人	5人	1人	6人	122人
就職･進学希望者数	80人	35人	115人	4人	1人	5人	120人
就職者数	71人	31人	102人	4人	1人	5人	107人
進学者数	6人	1人	7人	0人	0人	0人	7人
決定率※	96.3%	91.4%	94.8%	100%	100%	100%	95.0%

※決定率＝（就職者数＋進学者数）／就職・進学希望者数

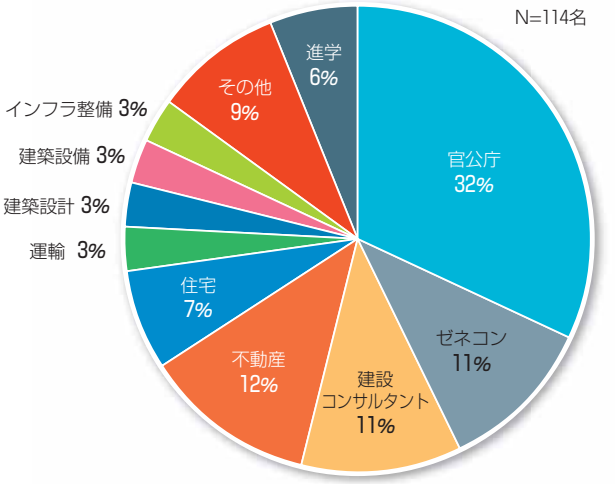

図１　業種別割合

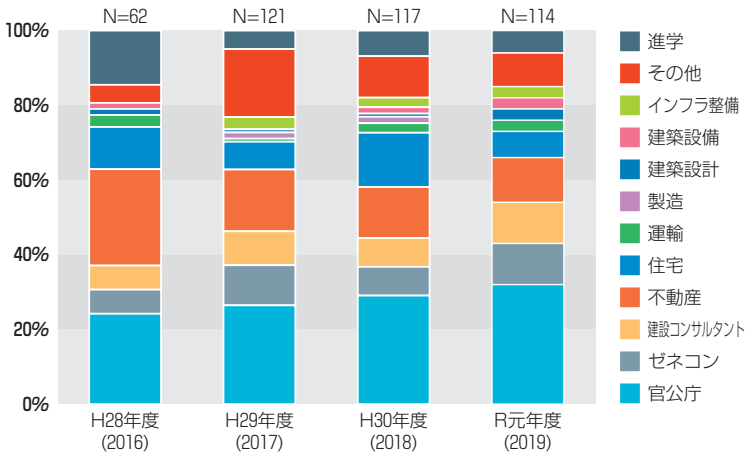

図２　まちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業生の就職先業種別割合
（修了・卒業時に進路未決定者を除く。令和元年度は2020年３月８日現在）

表２　就職・進学先一覧

業種	企業・団体名（[ ]内は人数）	人数
公務員	国土交通省四国整備局[1]，東京都庁[4]，埼玉県庁[1]，千葉県庁[3]，富山県庁[1]，千葉市役所[2]，横浜市役所[2]，青梅市役所[1]，市川市役所[1]，川口市役所[1]，越谷市役所[1]，草加市役所[2]，長野市役所[1]，船橋市役所[1]，八千代市役所[1]，荒川区役所[1]，板橋区役所[1]，大田区役所[1]，品川区役所[1]，渋谷区役所[1]，新宿区役所[1]，杉並区役所[1]，墨田区役所[1]，台東区役所[1]，中野区役所[1]，練馬区役所[2]，港区役所[1]	36人
ゼネコン	青木あすなろ建設[1]，安藤・間[2]，熊谷組[1]，五洋建設[1]，西武建設[1]，竹中工務店[1]，名工建設[1]，長谷工コーポレーション[1]，三井住友建設[1]，カタヤマ[1]，サンケイビルテクノ[1]，テクノプロ・コンストラクション[1]	13人
建設コンサルタント	日本工営[2]，アジア航測[1]，オリエンタルコンサルタンツ[1]，大日本コンサルタント[1]，共同測量社[1]，東京技工[1]，東京コンサルタンツ[1]，トーニチコンサルタント[1]，日本測地設計[1]，日本都市整備[1]，ホープ設計[1]，ホクト・エンジニアリング[1]，	13人
不動産	ALSOK ビルサービス[1]，NST [1]，MDI [1]，ゴールドクレスト[1]，ザイマックスアルファ [1]，JR 東日本ビルテック[1]，清水総合開発[1]，大成有楽不動産[1]，タカラレーベン[1]，TSP 太陽[1]，ハウスコム[1]，三井不動産商業マネジメント[1]，三井不動産ビルマネジメント[1]，モリモト[1]，	14人
住宅	大和ハウス工業[2]，積水ハウス[1]，旭化成リフォーム[1]，新昭和[1]，新日本建設[1]，日本ハウスホールディングス[1]，横浜市住宅供給公社[1]	8人
運輸	東海旅客鉄道[1]，四国旅客鉄道[1]，西武鉄道[1]	3人
建築設計	アイテック[1]，建築設計事務所パケラッタ[1]，新環境設計[1]，綜企画設計[1]	4人
建築設備	エム・ワン[1]，TOTO アクアエンジ[1]，中島工業[1]	3人
インフラ整備	東電タウンプランニング[2]，東京電設サービス[1]	3人
その他	学校法人日本大学[1]，西武造園[1]，日比谷アメニス[1]，ウィズグリーン[1]，きらぼし銀行[1]，ソニックス[1]，千葉銀行[1]，ディップ[1]，自営業[2]	10人
進学	日本大学大学院理工学研究科修士課程まちづくり工学専攻[7]	7人

令和元年度　まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

野口孝俊・阿部貴弘：港湾緑地整備方針の変遷と横浜港の賑わいの場整備に向けた一考察，土木学会論文集B3（海洋開発），Vol.75，No.2，pp.I_953-I_958，2019.

柳川星・阿部貴弘：米国ワシントン州シアトル市旧日本人街における日系コミュニティの変容過程に関する研究，都市計画論文集，Vol.54，No.3，pp.383-390，2019.

阿部貴弘・松下直道：近世城下町岩国の錦見地区における城下町設計の論理，土木学会論文集D2（土木史），Vol.76，No.1，pp.1-15，2020.

石川眞・後藤浩・竹澤三雄：道路構造の変化に対応した雨水の排除機能に関する考察，下水道協会誌論文集，日本下水道協会，Vol.56，No.679，pp.88-96，2019.

後藤浩・佐藤俊和・岡田健司・前野賀彦・竹澤三雄：洪水によって冠水する都市域におけるハザードマップ表示上の留意点，土木学会論文集（F6：安全問題），Vol.75，No.2，pp.39-46，2019.

押田佳子：南湖院ゆかりの文士を通してみた近代茅ヶ崎における地域イメージ変容に関する研究，ランドスケープ研究，Vol.82，No.5，pp.589-592，2019.

上田萌子・浦出俊和・大平和弘・押田佳子・上甫木昭春：鹿児島県指宿市におけるモイドン等に関わる伝統行事の存続状況と継承課題の把握，ランドスケープ研究，Vol.82，No.5，pp.567-572，2019.

海津ゆりえ・伊藤渚生・押田佳子・一ノ瀬友博・九里徳泰・田中伸彦・川合康央：海水浴場利用者の地震津波発生に対するリスク意識に関する研究―相模湾沿岸における夏季海水浴場利用者を題材に，都市計画報告集，No.18，pp.201-207，2019.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の道路行政政策に関する研究，土木学会論文集D2（土木史），Vol.75，No.1，pp.13-31，2019.

田島洋輔・岡田智秀：畜産系バイオガスプラントを中心とした循環型地域づくりに関する研究―酪農農場を対象としたRE100循環型地区モデルの構築―，日本建築学会環境系論文集，Vol.84，No.762，pp.783-793，2019.

田島洋輔・岡田智秀：水辺環境を活かした河川空間の魅力形成に関する研究―水都大阪・水の回廊における船着場と遊歩道と水辺を意識した建物の空間的波及と管理運営者の戦略プロセス―，日本建築学会計画系論文集，Vol.84，No.762，pp.1769-1778，2019.

宗永芳・中田善久・田嶋和樹・宮田敦典・荒巻卓見・鈴木大・藤下大知：支柱の一部残存三層受け工法におけるスラブ下および梁下の支保工を早期に取り外すための計算方法に関するアンケート調査，日本建築学会技術報告集，Vol.25，No.61，pp.1045-1049，2019.

宗永芳・中田善久・田嶋和樹・宮田敦典・荒巻卓見・鈴木大・藤下大知：支柱の一部残存三層受け工法が採用されるRC造建築物の構造的特徴の把握（その1　小梁の無いRC床スラブを有する建築物の構造諸元の傾向），日本建築学会技術報告集，Vol.25，No.61，pp.1051-1056，2019.

中田善久・大塚秀三・荒巻卓見・宮田敦典：転用によるコンクリート型枠用合板の品質変化とこれを用いたコンクリート表面の仕上がり状態に関する一考察，日本建築学会構造系論文集，Vol.84，No.766，pp.1513-1523，2019.

Makiko WATANABE, Koichi AMANO and Takaki NISHIYAMA: Influence of Composition Factors on Evaluations of Intermediate Areas Joining Public-Private Street Space, 2019 International Conference Asia-Pacific Planning Societies, 2019.

口頭発表（審査なし）

植田瑞昌・八藤後 猛：心身状況・排泄状況からみた障害児の類型化　障害のある子どもを取り巻く排泄環境整備に関する研究　その3，2019年度第90回日本建築学会関東支部研究発表会，2019.3.2-3.

鈴木大・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・宮田敦典・荒巻卓見・宗永芳・内山裕斗・茂呂和也：RC造における支柱の一部残存三層受け工法の検討物件の構造諸元に関する調査（その1　検討物件の概要および柱の構造諸元），2019年度第90回日本建築学会関東支部研究発表会，2019.3.2-3.

内山裕斗・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・宮田敦典・荒巻卓見・宗永芳・鈴木大・茂呂和也：RC造における支柱の一部残存三層受け工法の検討物件の構造諸元に関する調査（その2　検討物件の大梁の構造諸元），2019年度第90回日本建築学会関東支部研究発表会，2019.3.2-3.

稲澤琴恵・中田善久・荒巻卓見・大塚秀三・宮田敦典：コンクリート表面に木目模様を転写する打放し仕上げの型枠材料に関するアンケート調査，2019年度第90回日本建築学会関東支部研究発表会，2019.3.2-3.

大塚秀三・新妻尚祐・工藤桂一・樋脇毅・中田善久・荒巻卓見・奥山夏樹：鉄筋の配筋における結束線の種類および結束方法の違いが結束部の引張強度特性に及ぼす影響，2019年度第90回日本建築学会関東支部研究発表会，2019.3.2-3.

新橋一士・岡田智秀・落合正行：都市農地の計画的保全策に関する研究―法制度の変遷からみつ都市農地タイプ―，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

松岡七海・岡田智秀・寺尾光優：都市型人工海浜を核としたまちづくりに関する研究―東京都大田区立「大森ふるさとの浜辺公園」を対象として―，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

後藤浩・佐藤俊和・岡田健司・竹澤三雄：水害時の避難施設の立地に関する一考察，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

松原瑞希・仲村成貴・荒巻卓見・瀬尾高宏：静的載荷実験と数値解析に基づく実大高架橋の力学特性把握，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

桑原朱里・仲村成貴・関文夫：実測記録と数値モデルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性把握－地盤のモデル化範囲と橋梁の挙動－，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

坂田拳斗・仲村成貴・依田光正・荒巻卓見：古民家および周辺地盤での常時微動観測，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

鈴木耀人・仲村成貴・荒巻卓見・瀬尾高宏：振動計測に基づく実大高架橋試験体の損傷有無と振動特性変化，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

水内皐太郎・仲村成貴・荒巻卓見：東京都の基礎自治体が締結している民間団体との災害時応援協定の現状，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

元木日菜・仲村成貴・荒巻卓見：浸水および強地震動想定区域と公共建築物の立地状況を示す指標の提案，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

前田智美・仲村成貴・荒巻卓見：関東地方のダムにおける観光イベント活動に関する基礎的調査，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

赤間大樹・仲村成貴・荒巻卓見・瀬尾高宏・荒川洋・久保寺貴彦：地上レーザスキャナによる実大高架橋試験体の三次元計測，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究―マリンタウンプロジェクトに着目して―，第46回土木学会関東支部技術研究発表会，2019.3.13-15.

菊原綾乃・阿部貴弘：地下街の地上出入口デザインの特徴と変遷に関する研究，土木学会第59回土木計画学研究発表会，2019.6.8-9.

野中美貴子・野口孝俊・阿部貴弘：持続可能なインフラツーリズムの実施に向けた課題と効果に関する考察，土木学会第59回土木計画学研究発表会，2019.6.8-9.

野口孝俊・野中美貴子・阿部貴弘：横須賀観光資源の特徴と第二海堡ツーリズムとの相乗性に関する考察，土木学会第59回土木計画学研究発表会，2019.6.8-9.

秋元美咲・依田光正・川島哲史・依田麻子：段差の昇り・降り動作における動きにくさ評価―動作制限，蹴上げ高さおよび昇り・降りが与える影響―，日本人間工学会 第60回大会，2019.6.16.

後藤浩・下村祐輔・竹澤三雄：東京都東部低地帯における水害を考慮した神社と祭神に関する考察，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

阿部貴弘：『図説 近代日本土木史』の教材としての活用実践，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

阿部貴弘・佐々木葉・岡田一天・小野田滋・北河大次郎・土井祥子：戦後土木施設の歴史・文化的価値の評価方法に関する考察，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

阿部貴弘・木村優介：大規模自然災害による歴史的土木構造物の被災状況調査に関する考察，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

松崎翔矢・阿部貴弘：平成27年9月関東・東北豪雨被災地における水害対策の継承に関する調査―敷地単位の水害対策に着目して―，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

新保貴浩・阿部貴弘：鉄道高架下の土地利用変遷に関する研究―近代に建設された市街線高架橋を事例として―，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

江崎翼・阿部貴弘：戦後の臨海部における埋立工法と土地利用に関する研究，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の道路行政制度―「橋梁」に関する事項に着目して―，土木学会第39回土木史研究発表会，2019.6.22-23.

後藤浩・竹澤三雄：東京都沿岸の防潮堤天端高と波峯位との関係に関する考察，第32回日本沿岸域学会研究討論会，日本沿岸域学会，2019.7.19.

武藤直人・依田光正：海老名市における 8 地域の人口分析による地域課題の検討，第22回日本福祉のまちづくり学会全国大会，2019.8.9.

黒川百花・田中賢：大手企業における SDGs の社内導入意識調査，第22回日本福祉のまちづくり学会全国大会，2019.8.9.

後藤浩・石川眞・竹澤三雄：人の移動等円滑化のために改築される歩道と車道との段差の大きさの妥当性について，土木学会第74回年次学術講演会，土木学会，2019.9.3-5.

西山孝樹・天野光一・横沢和夫：理系大学生（エンジニア初学者）に向けた会計学の重要性とその実践，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

吉澤瑞季・天野光一・西山孝樹：鉄道駅のイメージ構造に関する基礎的研究，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：街路に存在する中間領域の構成要因が景観評価に与える影響，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

松岡七海・岡田智秀・寺尾光優：東京都大田区立「大森ふるさとの浜辺公園」の利用特性に関する研究―ビーチイベントに着目して―，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

新橋一士・岡田智秀・落合正行：首都圏近郊都市における生産緑地の保全方策に関する研究―千葉県八千代市を対象とした首都圏近郊農業の可能性と課題点について―，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

田島洋輔・岡田智秀・水石知佳・山口博：東京港における昼夜間の比較からみた海上景観特性に関する研究，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究―ポートルネッサンス21とマリンタウンプロジェクトに着目して―，土木学会第74回年次学術講演会，2019.9.3-5.

北村駿季・八藤後猛・牟田聡子：内部評価による事業分野別継続性　地域活性化事業における，住民参加に関する研究　その１，2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

押田佳子・佐藤悠貴：佐渡島南東部における佐渡能との関係性より捉えた神社継承の在り方に関する研究，2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

片山風花・押田佳子：鎌倉市腰越における江ノ島電鉄線沿線の線路側玄関住宅の現状と今後の在り方に関する研究，2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

荒巻卓見・中田善久・大塚秀三・宮田敦典：壁型枠の構成方法の違いがコンクリートの仕上がりの平たんさに及ぼす影響，2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

宗永芳・中田善久・田嶋和樹・荒巻卓見・宮田敦典・内山裕斗：RC 造における支柱の一部残存三層受け工法の検討物件の構造諸元に関する調査（その１　検討物件の柱の構造諸元），2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

内山裕斗・中田善久・田嶋和樹・荒巻卓見・宮田敦典・宗永芳：RC 造における支柱の一部残存三層受け工法の検討物件の構造諸元に関する調査（その２　検討物件の大梁の構造諸元），2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

稲澤琴恵・中田善久・荒巻卓見・大塚秀三・宮田敦典：化粧打放しコンクリートの仕上がり状態に関する研究―せき板の材質の違いがコンクリート表面の仕上がり状態に及ぼす影響―，2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

田中賢・高瀬大樹・村田明子・樋野公宏：大学キャンパスにおける犯罪不安と対策に関する調査概要　女子学生を対象とした大学キャンパスの防犯に関する調査報告（その１），2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

高瀬大樹・田中賢・村田明子・樋野公宏：防犯カメラの高機能化に関する態度　女子学生を対象とした大学キャンパスの防犯に関する調査報告（その２），2019年度日本建築学会大会［北陸］，2019.9.3-9.6.

秋元美咲・依田光正：歩行補助杖使用時の杖本体における加速度特性，LIFE2019（日本機械学会 福祉工学シンポジウム2019，第35回ライフサポート学会．第19回日本生活支援工学会），2019.9.14.

中野宏之・高梨博子・廻洋子：観光地域のアイデンティティのミクロ的基礎とマクロとの相互循環，日本交通学会研究大会，2019.10.20.

鎌田琢己・小木曽裕・山﨑晋：クラブの移転が地域に及ぼす影響に関する研究―ジェフユナイテッド市原・千葉の事例として―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

小島大祐・小木曽裕・山﨑晋：都市部のエリアマネジメント活動における空間活用に関する研究―東京のしゃれた街並みづくり推進条例のまちづくり登録団体を対象に―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

鈴木一平・小木曽裕・山﨑晋：墨田区墨田における居住者の防災意識と行政の対策への要望に関する研究，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

林千尋・小木曽裕・山﨑晋：まちづくりにおける保存と開発の調和に関する研究―石川県金沢市中心市街地を事例として―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

小泉建人・小木曽裕・山﨑晋：ハイウェイオアシスにおける利用者と周辺住民の利用実態に関する研究，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

野々村路子・小木曽裕・山﨑晋：山形県米沢市における地域子育て支援拠点の活動実態と地域連携に関する研究，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

小野田菜那・小木曽裕・山﨑晋：分譲建替え住宅における合意形成上の工夫・課題点に関する研究―多摩川住宅二号棟を事例に―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

岩崎瑞生・小木曽裕・山﨑晋：歴史的街並みの周辺地域に対する住民意識の研究―長野県小布施町を事例として―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

下村真央・小木曽裕・山﨑晋：駅前ペデストリアンデッキにおけるストリートミュージシャンの音楽活動に対する地域住民意識，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

渡辺隼・小木曽裕・山﨑晋：寺社参道沿い自営業の店舗における地域住民向け店舗の持続性に関する研究，―中山法華経寺参道と川崎大師表参道を対象として，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

小木曽裕：時計産業の都市計画である世界遺産のラ・ショード・フォンにける現状と考察，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

押田佳子：コンテンツツーリズムによる地域資源の再発掘プロセス―兵庫県丹波篠山市大上地区を対象として―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

片山風花・押田佳子：江戸名所図会における御神木の存続状況に関する研究―東京都19区を対象として―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

東山将実・押田佳子：民有緑地保全制度としての「市民の森」及び「市民緑地制度」の運用実態に関する研究，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

西垣霖・宮本はるこ・押田佳子：外国人来訪者が捉える日本庭園の魅力要素に関する研究―（その１）外国人来訪者による評価について―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

宮本はるこ・西垣霖・押田佳子：外国人来訪者が捉える日本庭園の魅力要素に関する研究―（その２）日本人来訪者の評価と外国人来訪者との比較―，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

落合正行・岡田智秀・小林侑輝：「倉庫リノベーション」による遊休港湾の機能転換プロセスに関する研究―全国のみなとオアシス登録港を対象として―，土木学会第60回土木計画学研究発表会・秋大会（企画提案型），2019.11.30.

樋口伊吹・岡田智秀・横内憲久・三溝裕之・田島洋輔：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究―ポートルネッサンス21とマリンタウンプロジェクトに着目して―，土木学会第60回土木計画学研究発表会・秋大会（企画提案型），2019.11.30.

若林彩華・阿部貴弘：城下町を基盤とする戦災復興都市の都市構造の変化に関する研究―メインストリートの配置変化に着目して―，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

加藤賢一・阿部貴弘：日本海沿岸における近世湊町の都市設計論理に関する研究―土崎・酒田・新潟・三国・敦賀を対象として―，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

木藤貴宏・阿部貴弘：千葉県富津市富津岬における文化的景観としての海苔養殖景観の変遷に関する研究―文化的景観の背景にある技術，組織，環境の変化に着目して―，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

寺田希・阿部貴弘：狭幅員の歩行者専用道路における高質化手法に関する研究―東京都新宿区神楽坂地区に着目して―，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.04.

大野みさ子・阿部貴弘：近世城下町大坂の水害及び水害対策に関する研究，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

江口真由・阿部貴弘：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の水害対策に関する研究，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

髙橋一希・阿部貴弘：近世秋田における城下町設計論理に関する研究―久保田・横手・大館を対象として―，第63回日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

西正史・天野光一・西山孝樹：サイエンスパークの

交流促進に関する研究―神戸医療産業都市における交流イベントの分析―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

掛谷頌悟・天野光一・西山孝樹：街路に形成された中間領域が始まる位置と影響を及ぼす構成要素の推定，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

西上直美・天野光一・西山孝樹：駅名が「まち」へ伝播する要因とその分類―関東地方に所在する７駅を対象として―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

山内慶吾・天野光一・西山孝樹：地域との関わりに着目した“瀬戸内国際芸術祭”展示作品とプロジェクト―芸術祭の会期外に着目して―，令和元年度（第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

西山竣也・天野光一・西山孝樹：駅構外からみた鉄道および関連施設の見え方に関する基礎的研究―北陸・甲信越地方と九州地方の宿泊施設を対象として―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

有川翔・天野光一・西山孝樹：福島県土湯温泉における観光まちづくりの展開と過程―東日本大震災発生後の新聞記事を対象として―，令和元年度（第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

上原諒太・岡田智秀・田島洋輔：東京臨海部における海上景観の構図特性に関する研究―事業者パンフレットの掲載写真に着目して―，令和元年度（第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

今井仁美・岡田智秀・森紗耶：都市空間における街区内細街路の回遊行動に関する研究―東京都表参道地区において歩行者を誘引させる構成要素の組み合わせ―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

勇崎大翔・岡田智秀・三溝裕之：「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究―北海道室蘭市における市民意識から捉えた地域構造に着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

淺香潤・岡田智秀・落合正行・新橋一士：都市農地の計画的保全策に関する研究―「 都市農業の優良事例集」に掲載された農業従事者の取り組みに着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

初本みなみ・岡田智秀・落合正行・小林侑輝：わが国のみなとまちづくりにおける「倉庫リノベーション」の実態に関する研究―「みなとオアシス」登録16港の構成施設とその機能に着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

佐藤良樹・岡田智秀・落合正行・永井公基：廃校における転用後の運営実態に関する研究―「みんなの廃校プロジェクト」に掲げる全国178事例の住民関与の類型とその特徴―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

竹内勇太・岡田智秀・落合正行・山本展久：東京都荒川区における外国人バックパッカーの行動特性に関する研究―予備調査を通じてみた調査方法の検討―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

亀澤結香・岡田智秀・落合正行：遊休施設を活用した「地域の居場所づくり」の実態に関する研究―東京都文京区における施設形態ごとの利用実態に着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

戸木田賢哉・岡田智秀・落合正行・松岡七海：「都市型人工海浜の整備促進方策に関する研究」―（その１）東京湾沿岸の人工海浜全９件の背後地域の土地利用に着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

松岡七海・岡田智秀・落合正行・戸木田賢哉：都市型人工海浜の整備促進方策に関する研究―（その２）東京湾沿岸の人工海浜全９件の法的位置付けについて―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

村上茜・岡田智秀・田島洋輔：水上交通利用者の撮影写真にみる海上景観の構図特性に関する研究―東京臨海部を対象として―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

渡辺由希・岡田智秀・田島洋輔：畜産系バイオガスプラントの導入促進要件に関する研究―北海道興部町の「北興バイオガスプラント」を対象として―，令和元年度（第63回）日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究―（その２）七尾フィッシャーマンズワーフの事業経緯と事業者間連携に着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

小木曽裕：先買い方式の土地区画整理事業における北下がり地形を活かした集合住宅地の考察，令和元年度（第63回）日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

鎌田琢己・小木曽裕・山﨑晋：スタジアム新設によるクラブの移転が地域に及ぼす影響に関する研究―ジェフユナイテッド市原・千葉の事例をもとに―，令和元年度（第63回）日本大学理工学部学術講演会2019.12.4.

小島大祐・小木曽裕・山﨑晋：都市部のエリアマネジメント活動における空間活用に関する研究，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

小泉建人・小木曽裕・山﨑晋：ハイウェイオアシスにおける周辺住民の利用実態に関する研究，令和元年度（第63回）日本大学理工学部学術講演会，12019.12.4.

岩崎瑞生・小木曽裕・山﨑晋：歴史的街並みの周辺地域に対する築年数と住民意識の研究―長野県小布施町を事例として―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

渡辺隼・小木曽裕・山﨑晋：寺社参道沿い自営業の店舗における地域住民向け店舗の持続性に関する研究―中山法華経寺参道と川崎大師表参道を対象として―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

北村駿季・八藤後猛・牟田聡子：住民を主体としたまちづくりへの働きかけ―地域活性化事業における，住民参加に関する研究―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

山田敦也・押田佳子：多摩ニュータウン開発に伴う神社継承の在り方に関する研究，令和元年度（第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

石田健太・押田佳子：災害復興計画における観光への配慮事項に関する研究―兵庫県南部地震以降の災害に着目して―，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

尾沢和樹・押田佳子：外国人来訪者が捉えた近代箱根宮ノ下の魅力に関する研究，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

入部真帆・押田佳子：神奈川県箱根町における観光危機管理の在り方に関する研究，令和元年度（第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

加藤凱久・押田佳子：時代経過に伴う武蔵陵墓地の位置づけと地域との係りに関する研究，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

山岸大雅・田中賢：秩父34か所札所のバリアフリーに関する研究，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

後藤浩・下村祐輔・竹澤三雄：東京都東部低地帯における水害を考慮した神社と祭神に関する考察，第62回日本大学工学部学術研究報告会，日本大学工学部，2019.12.7.

渡辺由希・岡田智秀・田島洋輔：畜産系バイオガスプラントの導入促進要件に関する研究―北海道興部町の民間参入型バイオガスプラントを対象として―，自然環境復元学会第20回全国大会，2020.2.14.

上原諒太・岡田智秀・田島洋輔：東京臨海部における海上景観の構図特性に関する研究―事業者パンフレットの掲載写真に着目して―，自然環境復元学会第20回全国大会，2020.2.14.

村上茜・岡田智秀・田島洋輔：水上交通利用者の撮影写真にみる海上景観の構図特性に関する研究―東京臨海部を対象として―，自然環境復元学会第20回全国大会，2020.2.14.

田島洋輔・川村敦・斉藤謙伍：埼玉県羽生市利根川沿川エリアにおける地域再生に関する研究―地域資源・利根川とその活用方法に着目して―，自然環境復元学会第20回全国大会，2020.2.14.

ポスター発表(審査なし)

小木曽裕・西原大夢：北下がり地形を活かした区画整理事業における集合住宅地の価値，平成31年度日本造園学会全国大会，2019.5.25.

西原大夢・小木曽裕：軽井沢における別荘地開発の歴史とその変遷に関する基礎的研究，平成31年度日本造園学会全国大会，2019.5.25.

仲村成貴・元木日菜：浸水想定区域内に立地する公共施設に関する基礎的調査，第45回(2019年度)地域安全学会研究発表会，2019.11.2.

アンドレチェック怜・中島郎登・上原章宏・檜山明来・原英里子・福原亜美・小木曽裕：軽井沢観光エリアの回遊性の現状とその交通手段及び原因解決の模索と提案，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

福田拓哉・池田はる・佐々木隆生・真砂哲也・桃井悠・西原大夢・小木曽裕：日本人観光客と外国人観光客の意識の比較，令和元年度日本造園学会関東支部大会，2019.11.23.

加藤彰太・岡田智秀・田島洋輔・新橋一士：千葉県八千代市新川沿川エリアにおける地域再生に関する研究―地域資源とその活用方策に着目して―，令和元年度（第63回）日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

アンドレチェック怜・上原章宏・檜山明来・原英里子・福原亜美・中島朗登・小木曽裕：観光客の軽井沢への意識の差異，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

福田拓哉・池田はる・佐々木隆成・真砂哲也・桃井悠・小木曽裕：日本人観光客と外国人観光客の軽井沢への意識の差異，令和元年度(第63回)日本大学理工学部学術講演会，2019.12.4.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

令和元年度後期　“まち”行事・イベントカレンダー

10/26（土）　理工学部ホームカミングデー

「第２回理工学部校友会まちづくり部会 総会」と「懇親会」を併せて実施しました。

10/26（土）　大学院まちづくり工学専攻 博士論文研究計画等発表会・修士論文経過審査会

駿河台校舎タワー・スコラ２階 S202教室において、博士前期課程１年生および博士後期課程１年生がそれぞれ発表を行いました。

11/3（日）　船橋キャンパスウォッチング

学科・入試相談会実施結果

来場者10組（内訳：付属高校２組、その他の高校８組）

相談内容（重複あり）

・指定校入試について	４組
・公募制入試について	１組
・校友子女入試について	１組
・付属推薦入試について	１組
・総合型選抜入試について	２組
・まちづくり工学科の特色、就職先など	２組

11/21（木）-1/23（木）　令和元年度 企業セミナー

場所：駿河台校舎タワー・スコラ12階・13階まちづくり工学科フロア

延べ参加学生数：881名

11月21日（木）４限（80名）

日本住宅株式会社、中央コンサルタンツ株式会社、東日本高速道路株式会社、三協フロンテア株式会社、大林道路株式会社、株式会社住軽日軽エンジニアリング

11月28日（木）４限（120名）

株式会社奥村組、株式会社ジェイアール東日本建築設計、三井ホーム株式会社、株式会社フジタ、三井共同建設コンサルタント株式会社、日本コムシス株式会社、中日本エクシス株式会社

12月５日（木）４限（145名）・５限（95名）

［４限］大和ハウス工業株式会社、株式会社ザイマックス、オリジナル設計株式会社、大日本コンサルタント株式会社、リテックエンジニアリング株式会社、京王建設株式会社

［５限］株式会社福山コンサルタント、株式会社熊谷組、日本工営株式会社、京浜急行電鉄株式会社、積水ハウス株式会社、アビリティーズ・ケアネット株式会社、ホクトエンジニアリング株式会社

12月12日（木）４限（134名）・５限（88名）

［４限］佐藤工業株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、鹿島建設株式会社、東電設計株式会社、株式会社千代田コンサルタント、東電タウンプランニング株式会社

［５限］株式会社オリエンタルコンサルタンツ、東日本旅客鉄道株式会社、大京グループ、日本振興株式会社、株式会社 UR リンケージ、株式会社日本陶業

１月16日（木）４限（92名）

横浜市住宅供給公社、株式会社大林組、玉野総合コンサルタント株式会社、独立行政法人都市再生機構、青木あすなろ建設株式会社、ヨシモトポール株式会社

１月23日（木）４限（127名）

株式会社オオバ、鹿島建物総合管理株式会社、清水建設株式会社、東京地下鉄株式会社、株式会社 UR コミュニティ、西武造園株式会社、国際航業株式会社

12/4（水）　令和元年度（第63回） 理工学部学術講演会

今年も恒例の理工学部学術講演会が開催され、まちづくり工学科として以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

口頭発表

樋口伊吹（博士前期課程１年まちづくり工学専攻）
　ウォーターフロント開発の事後評価に研究―七尾フィッシャーマンズワーフの事業経緯と事業者間連携に着目して―

松岡七海（博士前期課程１年まちづくり工学専攻）
　都市型人工海浜の整備促進方策に関する研究―（その２）東京湾沿岸の人工海浜全９件の法的位置付けについて―

佐藤良樹（まちづくり工学科４年）
　廃校における転用後の運営実態に関する研究―「みんなの廃校プロジェクト」に掲げる全国178事例の住民関与の類型とその特徴―

ポスター発表

加藤彰太（まちづくり工学科４年）
　千葉県八千代市新川沿川エリアにおける地域再生に関する研究―地域資源とその活用方策に着目して―

12/12 木 日本大学習志野高校（CST コース）駿河台校舎見学会

場所：駿河台校舎タワー・スコラ福祉環境実験室
駿河台キャンパスを訪れた高校 2 年生・ CST コースの皆さんへ、まちづくり工学科の説明を実施しました。

12/14 土 大学院まちづくり工学専攻 第 2 回修士論文審査会・博士論文研究計画等発表会

駿河台校舎タワー・スコラ S405教室において、博士前期課程 2 年生および博士後期課程 1 年生がそれぞれ発表を行いました。

1/11 土 令和元年度　測量実習センター研究交流会

場所：船橋校舎測量実習センター
後藤教授、仲村教授、西山助教が発表を行いました。

2/19 水 卒業研究発表審査会

（敬称略）
Ａグループ担当教員：岡田、小木曽、山﨑、落合、城内
Ｂグループ担当教員：後藤、高村、押田、荒巻
Ｃグループ担当教員：田中、仲村、（阿部）、牟田、田島、青木
Ｄグループ担当教員：天野、八藤後、依田、西山

2/26 水 修士論文審査会

駿河台校舎タワー・スコラ S202教室において、まちづくり工学専攻修士論文最終審査会を実施しました。

3/9 月 卒業発表・修了発表

本年度の卒業生数は116名（９月卒業２名を含む）、修了者数は６名です。

令和元年度　まちづくり工学科各賞受賞者

最優秀修士論文賞
■ **永井公基**：地域課題解決を促す廃校活用特性に関する研究 ―「みんなの廃校プロジェクト」に掲げる全国178事例を対象として―

最優秀発表賞
■ **工藤隼人**：避難場所の収容人数を考慮した津波避難計画に関する基礎的検討

優秀発表賞
■ **石橋さやか**：行為に溶けるデザインに関する研究 ―待ち合わせ場所に注目して―
■ **山口侑汰**：道路構造の変化による都市雨水排水の問題点に対する改善策の水理学的検討
■ **佐藤良樹**：地域活性化に資する廃校活用の運営実態に関する研究 ―廃校活用検討会における住民関与に着目して―
■ **江方純一朗**：フラクタル次元を用いた公開空地等の広場の形状に関する考察
■ **餌取　匠**：大災害発生時における避難所としての寺社仏閣の精神的支援効果の解明に関する研究
■ **矢代由衣**：自治体が民間団体と締結する災害時応援協定の内容分析 ―災害対応についての課題との関連―
■ **山岸大雅**：秩父34ヶ所札所のバリアフリーに関する研究

桜まち卒業論文賞
■ **黒川百花**：大手企業における SDGs の社内導入意識調査
■ **寺田　希**：狭幅員の歩行者専用道路における高質化手法に関する研究 ―東京都新宿区神楽坂地区に着目して―
■ **村上　茜**：水上交通利用者の撮影写真にみる海上景観の構図特性に関する研究 ―東京港を対象として―
■ **渡邉由希**：畜産系バイオガスプラントの導入促進要件に関する研究 ―北海道興部町の民間参入型バイオガスプラントに係る事業経緯とその特徴―
■ **荒井太陽**：震災被災地の移転先地整備後のまちづくり課題に関する研究
■ **長澤夏希**：首都直下型地震における人的被害想定を考慮した火葬場の空間配置の問題点の考察
■ **初本みなみ**：わが国のみなとまちづくりにおける「倉庫リノベーション」の促進方策に関する研究 ―「みなとオアシス」登録16港を対象として―
■ **亀澤結香**：遊休建物を活用した「地域の居場所づくり」の運用方策に関する研究 ―東京都・文京区社会福祉協議会の取り組みに着目して―

桜工賞
今井仁美、工藤隼人、佐藤良樹

優等賞
工藤隼人、黒川百花、山岸大雅

教職員・学生の活躍　令和元年10月１日～令和２年２月28日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

［受賞］

教授 八藤後　猛

「2019年度グッドデザイン賞」

対　　象：『地域連携［エリアコミュニティ WAKU WAKU］』
受賞年月日：2019年10月２日

助手 田島洋輔

埼玉県「令和元年度彩の国埼玉環境大賞『優秀賞』」

対　　象：利根川を活用した小学校の河川体験支援と環境まちづくり活動の展開
受賞年月日：2020年２月17日

４年 片山風花

2019年度建築学会全国大会（北陸）学術講演会建築計画部門若手優秀発表賞

対　　象：鎌倉市腰越における江ノ島電鉄沿線の線路側玄関住宅の現状と今後の在り方に関する研究
受賞年月日：2019年11月15日

４年 東山将実

公益社団法人日本造園学会関東支部「2019年度公益社団法人日本造園学会関東支部大会最優秀研究発表賞」

対　　象：民有緑地保全制度としての「市民の森」及び「市民緑地制度」の運用実態に関する研究
執　　筆：東山将実､押田佳子
受賞年月日：2019年11月23日

４年 鈴木一平

公益社団法人日本造園学会関東支部「2019年度公益社団法人日本造園学会関東支部大会最優秀研究発表賞」

対　　象：墨田区隅田における居住者の防災意識と行政の対策への要望に関する研究
執　　筆：鈴木一平、小木曽裕、山﨑晋
受賞年月日：2019年11月23日

４年 山﨑一期

全日本理工科大学空手道選手権大会「団体形３位」「団体組手３位」

受賞年月日：2019年11月24日

文京区空手道選手権大会「個人形３位」「個人組手３位」

受賞年月日：2019年12月１日

［雑誌等に掲載］

教授 阿部貴弘

記事「見て歩き土木遺産 近世城下町大坂の町人地を歩く」

掲　載　誌：『月刊 土木技術』（理工図書）
発行年月日：2019年10月28日

教授 天野光一

記事「景観法から十五年―成果と限界そしてこれから―」

掲　載　誌：『計画・交通研究会会報』（一般社団法人計画・交通研究会）
発行年月日：2019年５月17日

記事「差別と区別と」

掲　載　誌：『工学教育』（公益社団法人日本工学教育協会）
発行年月日：2020年１月20日

記事「道建協 第20回道路技術シンポジウム 観光資源としての道と舗装～道路の景観形成への要請がもたらすもの～」

掲　載　誌：『道路建設』（一般社団法人日本道路建設業協会）
発行年月日：2019年３月25日

記事「美しい国土の形成に向けて」

掲　載　誌：『セムズ』（太平洋セメント株式会社）
発行年月日：2019年４月

記事「美しい国土形成に向けて」

掲　載　誌：『高速道路と自動車』（公益財団法人高速道路調査会）
発行年月日：2019年５月

准教授 押田佳子

記事：「「ヨソモノ」を担い手とする緑地保全・活用に向けて」

掲　載　誌：『公園緑地』（一般社団法人日本公園緑地協会）
発行年月日：2019年12月27日

客員教授 廻　洋子

記事：「訪日クルーズは量から多様性への転換」

掲　載　誌：『ていくおふ』（ANA 総合研究所）
発行年月日：2020年１月31日

記事：「まちと鉄道：沿線の魅力を磨く（特集日本の「田園都市」創生から100年：その歴史的意味とこれから）（鉄道沿線地域のこれから）」

執　　筆：坂東真理子、大田弘子、廻洋子
掲　載　誌：『運輸と経済』（交通経済研究所）
発行年月日：2019年３月

［書籍に掲載］

教授 阿部貴弘

記事「城下町の骨格」「街路とヴィスタ」

掲載書：『日本の建築文化事典』（丸善出版）
発行年月日：2020年１月31日

［講演等］

教授 岡田智秀

観光地エリア景観計画策定に向けたポイント

主　　催：静岡県御前崎市
開催年月日：2019年10月６日

海が育んだ大森の歴史と文化

主　　催：大森医師会
開催年月日：2019年10月24日

都市農業を活かしたこれからのまちづくり

主　　催：千葉県八千代市
開催年月日：2019年11月４日

室蘭のまちづくり10年の大計をきづこう

主　　催：室蘭市町内会連合会
開催年月日：2019年11月25日

身近な暮らしの中で育む景観まちづくり

主　　催：公益社団法人長野県建築士会佐久支部
開催年月日：2020年２月３日

教授 八藤後　猛

第58回公開市民大学講座「オリンピックパラリンピック×理工学」2020年東京五輪・パラがもたらす福祉のまちづくり（講師）

主　　催：日本大学理工学部･日本大学短期大学部
開催年月日：2019年10月19日

客員教授 廻　洋子

空港コンセッションと観光の役割

主　　催：一般財団法人みなと総合研究財団
開催年月日：2019年10月４日

編集後記

何気なくテレビをつけると、『18祭（さい）』という番組が放送されていました。人生の岐路にたち、悩み苦悩する18歳の想いを受けてアーティストが楽曲を制作、彼らと共演する番組です。今回は、[Alexandros] の Philosophy が披露され、誰もが一度は経験したことのある感情と辛くても自分を信じて夢に向かおうとする姿が歌われました。この曲の歌詞は、卒業を迎えて社会へと羽ばたく卒業生の皆さん、進路選択に悩む学部生・大学院生の皆さんの心にとても響くと思います。私もウルッ……。一度聴いてみてください。川上洋平さん、やはり素敵でした。　（西山孝樹）